



飢餓から救う。未来を救う。



© WFP/Ali Jadallah

ガザ地区で支援のオリーブオイルを受け取った少女。(今回の戦闘開始前に撮影)

国連の食料支援機関

# 国連WFPニュース Feb.2024 Vol.73

紛争、洪水、相次ぐ地震、そして過酷な冬—  
危機に見舞われる人びとへ、今日を生きるための食料を

SAVING  
LIVES  
CHANGING  
LIVES



## 日本を想う親しみの心に寄り添って—

日本人職員に聞く アフガニスタン国事務所・山脇晃明財務官

山脇さんはタリバンによる政権掌握直後の2021年9月、財務官としてアフガニスタンに赴任しました。現地では未だに金融インフラが完全に機能しているとは言えない中、海外との資金のやり取りや現地業者との取引に、日々奮闘しています。

「財務はうまくいって当たり前で、お金の流れが滞ると多くの部署に影響が出ます。過去には支払いの件で、一部の取引業者から「大幅に遅れた場合はタリバンに報告する」と言われたこともありましたが。しかし何度かトラブルを解決するうちに、組織内外の信頼を得られ、同僚からも「コウメイと一緒に仕事できてよかった」と言われるように。

数字相手の仕事の中、現場からの業務レポートに目を通すなどして、支援を受けている人たちとのつながりも、常に意識するようにしています。昨年は治安がやや安定したため、地方の支援現場も視察し「外国人職員がここまで来たことはほとんどない」と出張先の関係者に驚かれたことも。

アフガニスタンは夏、40度を超える地域もあれば、冬はマイナス30度まで冷え込む地域もあるなど気候条件が厳しい上、地震や干ばつ、紛争も頻発しています。タリバン支配下で、女性の高等教育や就業が禁じられるなど、人権侵害も続いています。

「この国の人は優しく、日本に親しみを持っています。昨年は深刻な資金不足のため、アフガニスタンで1,000万人への支援の打ち切りを余儀なくされました。しかし、特に弱い立場にある女性たちにとって国連WFPの支援が命綱となっている中、日本の皆様のご支援はかけがえのない力となっています。どうかこれからも彼ら彼女らに寄り添い、困難の多いこの国に持続的なご支援をお願いします」



アフガニスタン国事務所・山脇晃明財務官(前列右)

記事全文はこちら  
ぜひご覧ください。



## インフォメーション

### 今年も開催！「WFP ウォーク・ザ・ワールド 2024」

参加費の一部が国連WFPの学校給食支援への寄付となる、チャリティウォークを横浜、大阪、名古屋で開催します！

日程：横浜 5月12日(日)、大阪 5月19日(日)、名古屋 6月2日(日)

\*詳細は3月中旬に国連WFPのホームページで公開予定です。どうぞお楽しみに！



©JAWFP

### 身近にできる国連WFP支援 レッドカップキャンペーン

国連WFPが給食を入れる容器として使っている「赤いカップ」を目印に、毎日のお買物で学校給食が支援できるレッドカップキャンペーン。新たに1社が参加しました。売り上げの一部は学校給食支援に寄付されます。  
<https://www.jawfp.org/redcup/>



株式会社農心ジャパン  
辛ラーメン(カップ/3食入袋麺)



**国連WFP**  
<https://ja.wfp.org>  
**0120-496-819**  
受付時間 9:00 ~ 18:00  
(通話料無料・年始を除く年中無休)

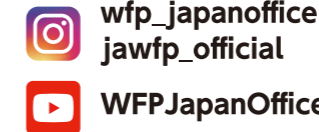
国連WFPは「飢餓をゼロに」の実現を通して、SDGsのさまざまな目標の達成に貢献しています。



貢献するSDGsの一例



ご寄付はこちら



メルマガ登録





## リビア洪水 日本の寄付が早期対応に貢献 緊急事態に備えた食料備蓄。



昨年9月に大洪水に襲われ、4,500人以上の命が奪われたリビア。国連WFPは2日後には支援を開始。この中には日本政府から寄贈された緊急食料品492箱や油429本も含まれ、仮設シェルターで429世帯に配布されました。配給には砂糖、パスタ、米、小麦粉、トマトペースト、白いんげん豆、食用油が含まれます。

ドバイの国連人道支援物資備蓄庫（UNHRD）からは栄養強化ビスケット40トンを輸送。緊急事態に備えて備蓄していることで、早期対応が可能となりました。

リビア国事務所のアラハルガウイ代表は、「緊急時に迅速に対応できたことは活動に大きな違いをもたらしました。日本の皆さまのコミットメントを証明するものです」と感謝を述べました。

国連WFPはこれまでに11万人以上の被災者へ緊急食料支援を実施。被災者の長期的なニーズに応えるためにも、現金支援への切り替えや被災地の復興支援などへの移行も進めています。

## 国連人道支援航空サービス (UNHAS)



すべての人道支援団体が平等に利用できる唯一の人道支援航空サービス。戦闘や災害で、地上輸送も民間の航空輸送もできない場合など、最も遠隔で厳しい地域にも重要な路線を確保しています。国連WFPが運航し、安全で、信頼性と費用対効果の高い輸送を提供しています。

## スーダン紛争 生活再建の力に— 輸送力を活かし、戦闘地域に食料を届ける。

昨年4月に武力衝突が激化したスーダン。以来、国連WFPは輸送力を活かして隣国チャドから陸路で食料を届けるなど、これまで520万人に食料支援を行っています。

首都ハルツームからポートスーダンに逃れた19歳の学生アジザは、支援を受けて「家で料理ができるようになり、空腹のまま眠らなくて済むようになりました」と感謝を伝えます。食べ物があることで、生活再建の力が生まれる助けにもなります。

しかし12月には、多くの人びとが避難してきていたジャジーラ州にまで戦闘が拡大。一部で食料支援を一時中断せざるを得なくなりました。

「チームは24時間体制で支援が可能な場所で食料を届けており、安全が確認されれば他の地域でも再開します」とスーダン国事務所のロウ代表は話します。ジャジーラ州は穀倉地帯で、国内の小麦の半分が生産されています。紛争が穀倉地帯にまで及べば、深刻な影響が懸念されます。



## ウクライナ戦争 戦禍で迎えた3度目の冬 前線地域の住民へ食料支援を。

戦争開始から3度目の冬、ウクライナでは今も5世帯に1世帯が食料不安に陥っています。戦闘の前線から30キロ以内には今も90万人が暮らしており、わずかな食料が法外な値段で売られることも。「私たちはこれらの地域への支援に力を注いでいます」とウクライナ国事務所のホリングワース代表（当時）は話しました。

国連WFPはこれまでに約24億食に相当する食料・現金支援を実施。輸送隊が、支援の届きにくい地域にも食料や必需品を定期的に届けており、食料支援の80%は前線に近い地域で提供されています。提供する食料の約80%は地元の農家や小売店から購入し、地域経済を支えています。冬の間も毎月240万人を支援する計画です。



## 国連WFPの緊急支援活動（一例）



## トルコ・シリア地震 世界的な活動資金不足により 一般食料支援が停止に。

昨年2月の大地震から1年—国連WFPは地震発生から1か月の間に約270万人の被災者に支援を届けました。

シリアでは13年間続いた内戦の影響、経済危機、気候危機、そして地震と、積み重ねるような困難が押し寄せています。国連WFPは昨年7月、資金難のため1か月間の支援者を550万人から320万人へと削減。さらに世界的な人道資金の逼迫により、昨年12月に、これまで10年以上続いた一般食料支援の停止が余儀なくされました。食料支援に頼る家庭に与える甚大な影響を懸念しています。

今後も被災した家庭には可能な限り、より集中的に支援を行うとともに、学校給食、母子栄養、自立支援などに限られた資金を充てていきます。

## アフガニスタン地震 相次ぐ地震、深刻な資金不足 日本の支援が、弱い立場の家族を救う。

昨年10月の大地震で集落が丸ごとがれきに埋まるなど、甚大な被害を受けた西部。国連WFPは直後から栄養強化ビスケットなどを配り、初動対応で一人でも多くの命を救う努力を続けてきました。

これまで被災者10万人以上に食料支援や乳児への栄養支援などを届けていますが、生活再建までの道は遠く、長期的な支援が必要です。アフガニスタン国内では人口の3分の1以上が食料支援を必要としており、厳しい冬を乗り越えるための支援も求められています。しかし限られた予算の中、被災地支援はそれ以外の地域に届ける支援を削る形で賄わざるを得ません。

日本政府は10月、被災者支援のために100万米ドルを拠出。アフガニスタン国事務所のマンハルト副代表は「日本の支援は、最も弱い立場にある家族に食料を届ける上でとても重要です」と話します。

日本は過去5年間にわたり、国連WFPアフガニスタンの上位10位に入るトップドナーです。



## 国連人道支援物資備蓄庫 (UNHRD)



国連機関や他の人道支援団体の救援物資・緊急用機材を保管し、迅速に輸送するグローバルネットワーク。備蓄庫は世界5か所にあり、輸送の利便性と災害の多い地域との近さから選定されています。国連WFPが運営し、緊急時には48時間以内の発送を目指しています。

## ガザ地区での戦闘

激しい戦闘により飢きの可能性も—  
支援の成果を紛争が打ち壊す。

ガザ地区では深刻な飢餓が発生し、4人に1人が最も深刻なフェーズの壊滅的な飢餓に。昨年、7日間の戦闘の人的休止の間は支援を拡大するための安全を確保でき、食料配給拠点を倍増。アクセスが困難な北部の一部地域を含め、一週間で25万人を支援しました。

しかし、戦闘再開後は再びアクセスが限られ、支援は困難を極めています。国連WFPはこれまでに人口約220万人のガザ地区で140万人に支援を届けましたが、飢餓は非常に速いスピードで拡大しています。深刻な飢餓や栄養不足は人びとの免疫も低下させ、過密状態の避難所ではすでに感染症が蔓延しています。紛争前は、ガザで所得の低い女性などへの職業訓練を通じて収入を支えていましたが、実を結び始めた支援の成果が打ち崩されています。国連WFPは、大規模な支援物資の輸送を可能にし、ガザに迫る大惨事を回避するため、人道的停戦とすべての国境検問所の開放を求めています。

© WFP/Guatemala

紛争、洪水、相次ぐ地震、そして過酷な冬—  
危機に見舞われる人びとへ、今日を生きるための食料を  
紛争や災害が発生した時、まず必要とされるのが食料です。国連WFPは現地政府からの支援要請に基づき、いち早く被災地に入り、48時間以内に最初の食料を届けることを目指しています。  
世界5か所で救援物資や緊急用機材の備蓄庫、国連人道支援物資備蓄庫（UNHRD）を運営し、その時に備える国連WFP。「国連随一の輸送集団」として、国連人道支援航空サービス（UNHAS）も運航し、他の国連機関や人道支援団体の活動も支えています。